

2026年度（2027年3月期） 第1四半期決算説明資料

2026年8月12日

H.U.グループホールディングス株式会社
(証券コード：4544)

はじめに

- ※ 本資料では、記載している部分およびEBITDA（営業利益＋減価償却費＋のれん償却費）の数値を除いて、日本基準（J-GAAP）に基づく数値にて開示しております。
- ※ 「親会社株主に帰属する当期（四半期、中間）純利益/純損失」を「当期（四半期、中間）純利益/純損失」と省略する場合があります。
- ※ 数値は原則として表示数値の単位未満で四捨五入しております。
- ※ 各事業名等については以下のとおり省略する場合があります。
 - 臨床検査薬事業 : IVD (In-Vitro Diagnostics)
 - 検査・関連サービス事業 : LTS (Lab Testing and its related Services)
 - ヘルスケア関連サービス事業 : HS (Healthcare-related Services)
- ※ 本資料で用いている為替レートは以下の通りです。

2025年度Q1	: 1 USD = 144.61 JPY	1 EURO = 163.80 JPY
2026年度Q1	: 1 USD = 159.48 JPY	1 EURO = 185.38 JPY

1. サマリー（連結業績）

エグゼクティブ・サマリー（連結）

	売上高	EBITDA	営業利益	四半期純利益	EPS
	626 億円	72 億円 EBITDAマージン 11.4%	21 億円 営業利益率 3.4%	16 億円	28.5 円
対前年	+12億円 / +1.9%	+9億円 / +13.6%	+12億円 / +141%	+28億円 / + --%	+50円 / + --%
年間 進捗率	24.4%	24.7%	23.3%	31.5%	31.6%
(参考) 年間計画	2,560億円	290億円	90億円	50億円	90.1円

セグメント別：サマリー

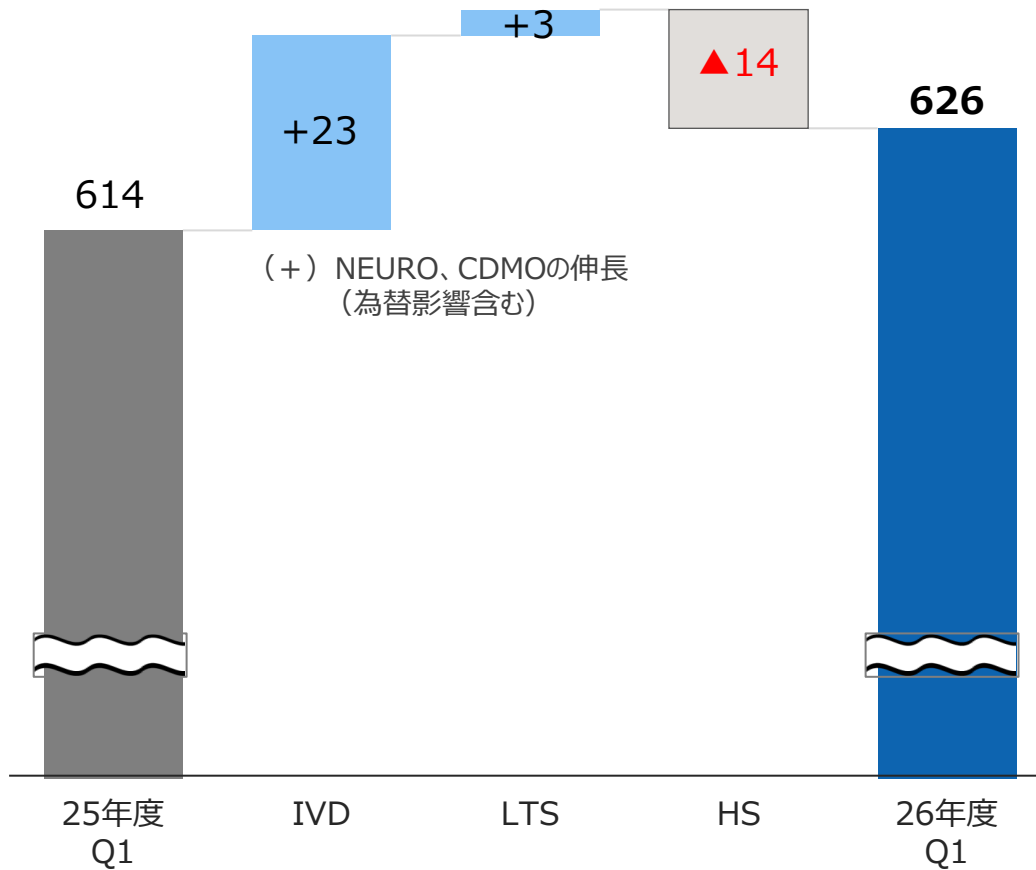
	売上高	EBITDA	営業利益	主なポイント
IVD 対前年(上)年間進捗率(下)	164 億円 +23億円 / +16% 25.2%	39 億円 +2億円 / +6.2% 23.7%	24 億円 +1億円 / +5.6% 22.2%	- NEUROは、米国・欧州市場を中心に、血液試薬が伸長（対前年 +85%成長） - CDMOは、対前年 +20%成長 - 国内ルミパルス（ベース）は対前年横ばい。COVID減少
LTS 対前年(上)年間進捗率(下)	396 億円 +3億円 / +0.8% 24.1%	39 億円 +13億円 / +48% 25.1%	7 億円 +15億円 / + --% 25.0%	- ゲノム関連検査は、堅調に成長 - 価格適正化等により、限界利益が増加。固定費削減施策の効果発現 25年度Q1は、あきる野関連の一時費用あり（9億円）
HS 対前年(上)年間進捗率(下)	66 億円 ▲14億円 / ▲17% 24.4%	7 億円 ▲5億円 / ▲40% 27.3%	5 億円 ▲2億円 / ▲31% 30.6%	- 滅菌事業は、価格適正化等により増収 - 福祉用具事業の連結除外により減収減益

セグメント別：対前年差異分析（売上高、営業利益）

連結売上高

(億円)

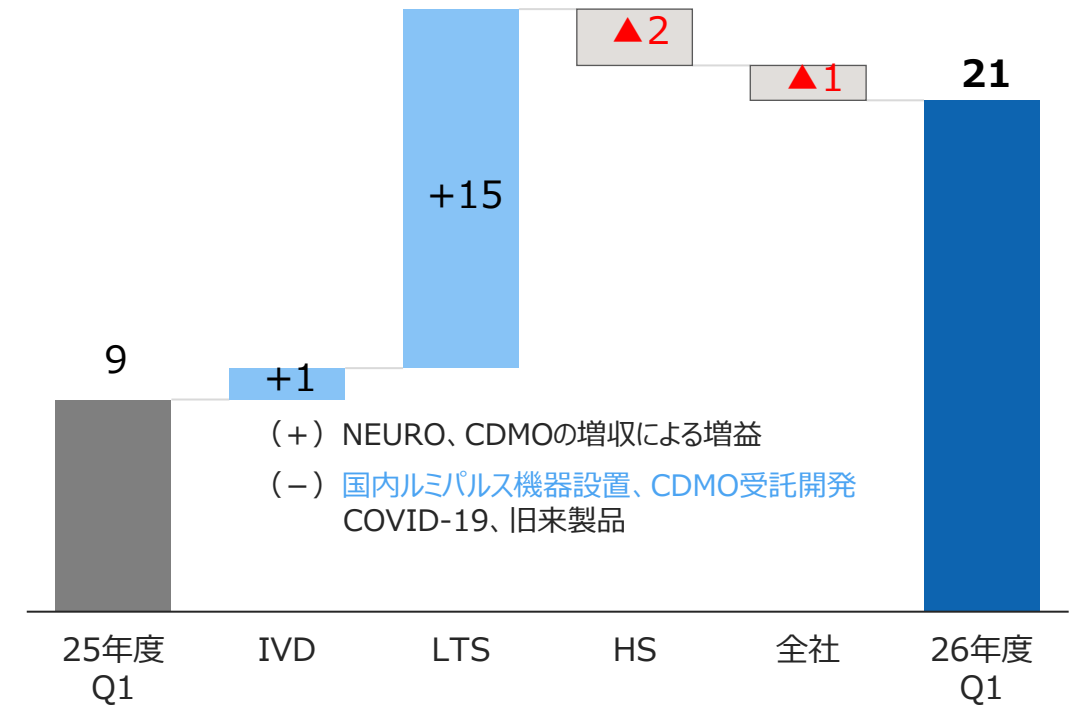
(－) ケアレックス連結除外



連結営業利益

(億円)

(+) 販売価格の適正化
(+) 固定費の削減 (25年度あきる野関連一時費用影響含む)

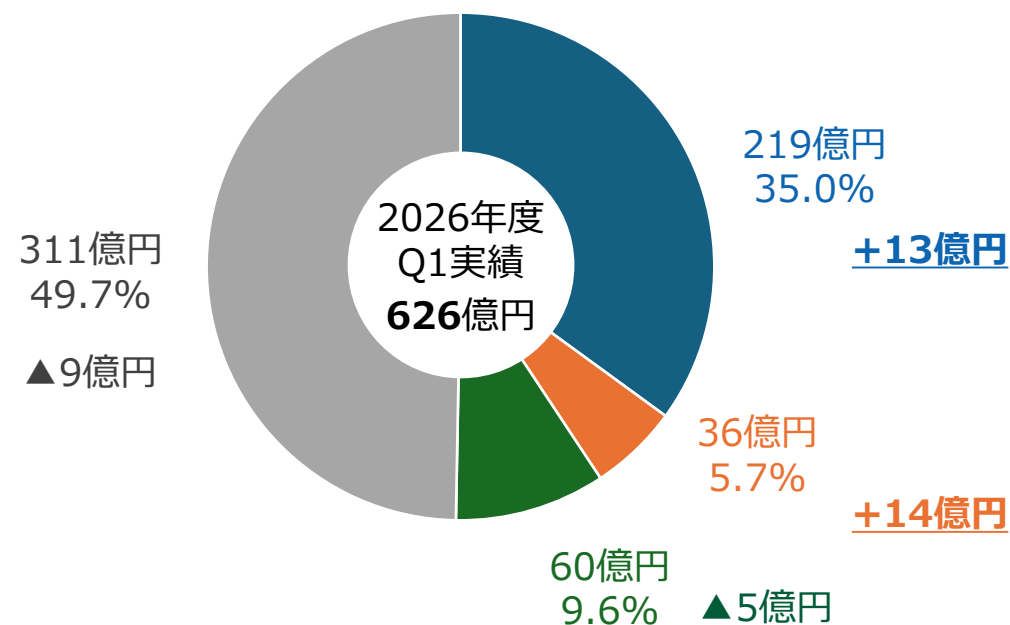
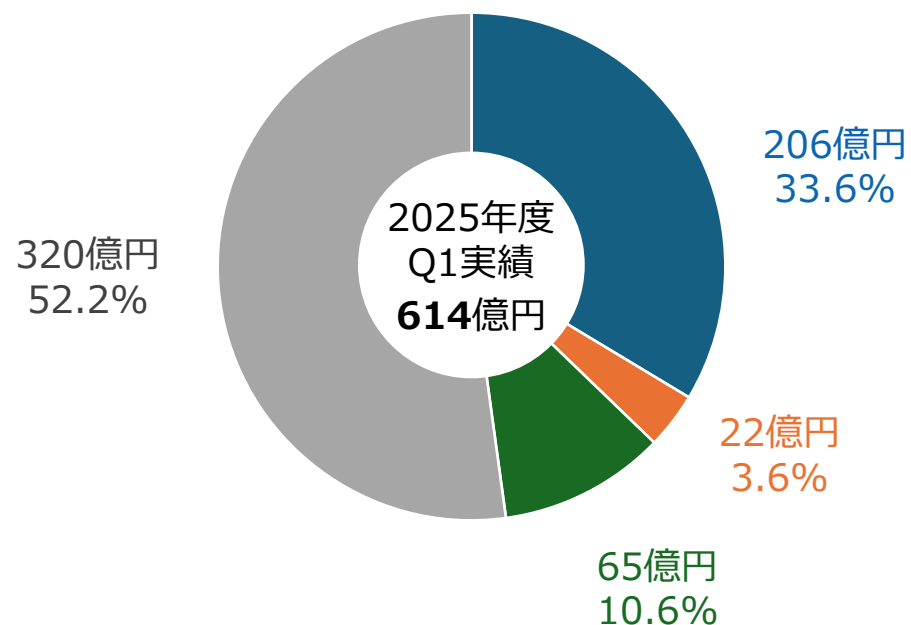


疾患別：サマリー

2025年度 Q1実績

2026年度 Q1実績

■ オンコロジー ■ NEURO ■ 感染症 ■ その他



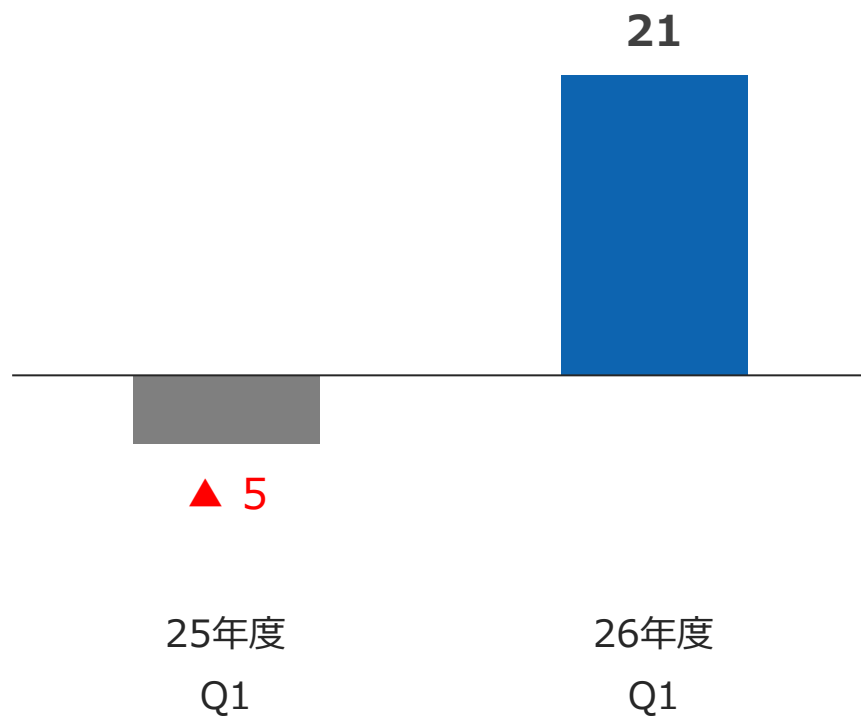
引き続き、NEUROおよびオンコロジー領域がグループ全体の成長を牽引する

3つの成長領域：①NEURO（IVD）、②CDMO（IVD；オンコロジー）、③ゲノム関連検査（LTS；オンコロジー）

連結経常利益および四半期純利益（対前期比）

連結経常利益

(億円)

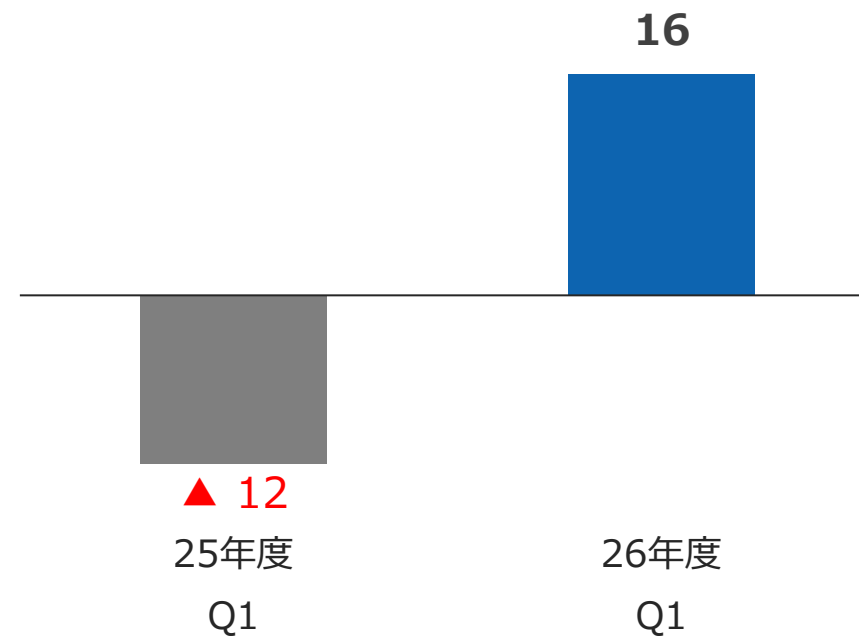


主な営業外損益

- 25年度 Q1は為替差損（5.7億円）及び持分法による投資損失（4.5億円）が発生

四半期純利益

(億円)



主な特別損益

- 固定資産売却益 2.4億円

連結貸借対照表

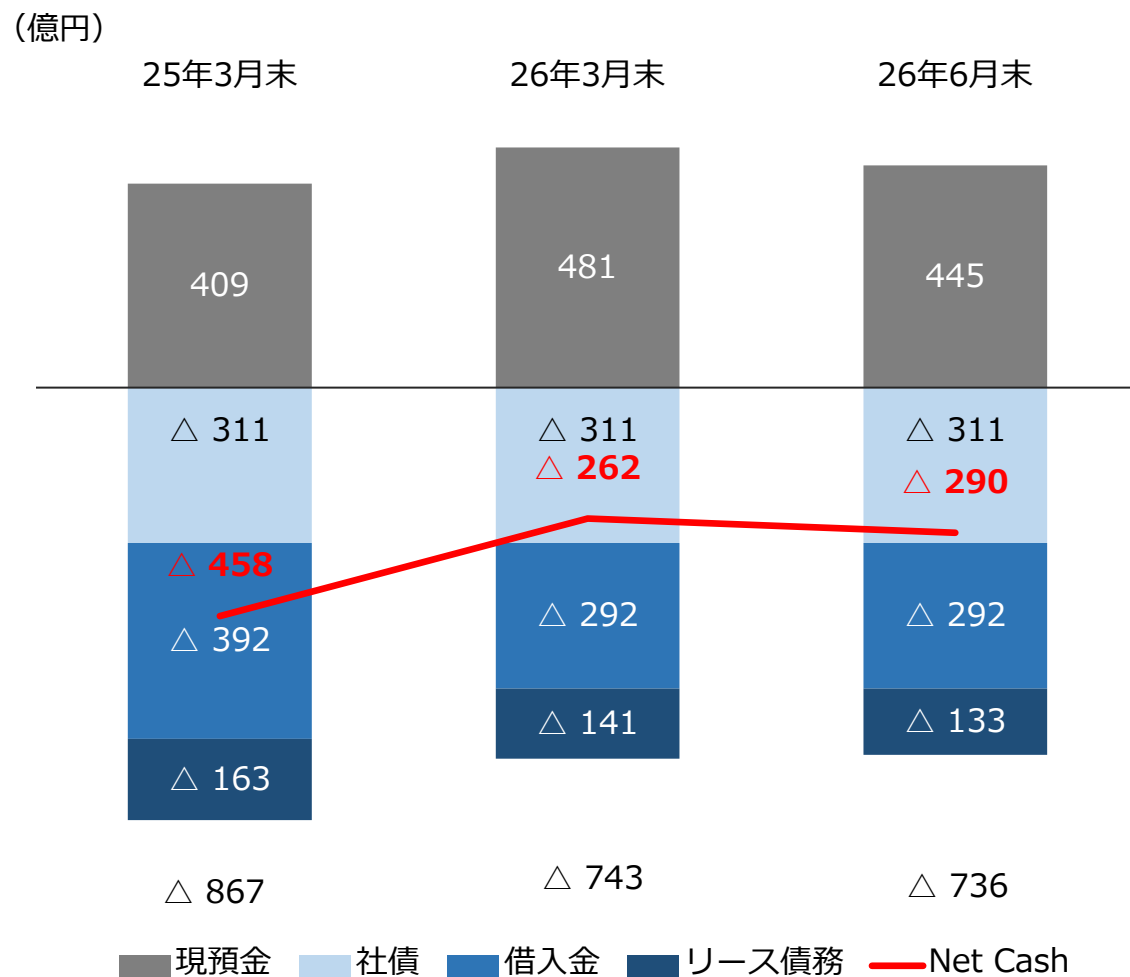
連結貸借対照表（前期末比較）

（億円）

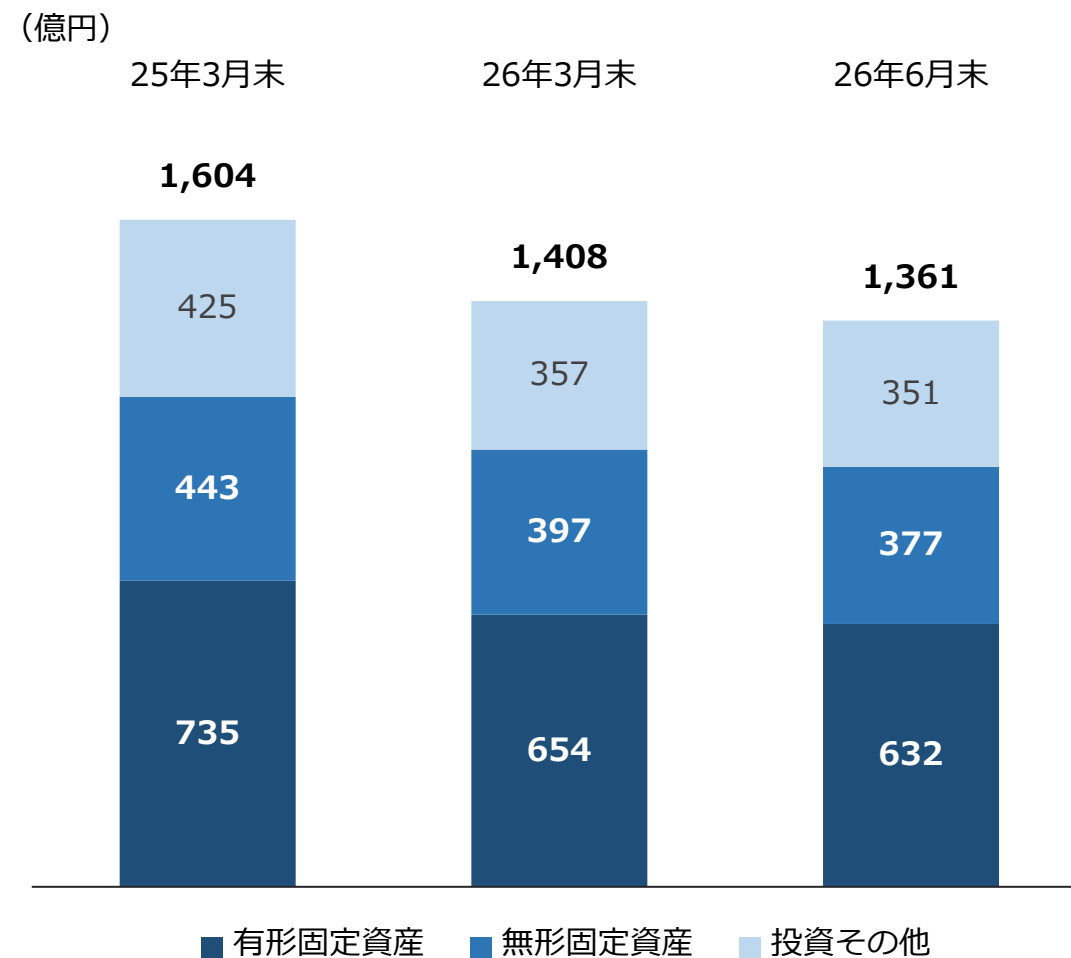
	2026年 3月末	2026年 6月末	増減		2026年 3月末	2026年 6月末	増減
流動資産	1,266	1,269	+3	負債	1,300	1,284	△ 16
現金及び預金	481	445	△ 36	仕入債務	203	204	+0
売上債権	470	487	+16	有利子負債	743	736	△ 8
棚卸資産	240	253	+12	その他	353	344	△ 9
その他	75	84	+10	純資産	1,375	1,346	△ 28
固定資産	1,408	1,361	△ 47	自己資本	1,373	1,345	△ 28
有形固定資産	654	632	△ 22	株主資本	1,202	1,167	△ 34
無形固定資産	397	377	△ 20	その他包括利益累計額	172	178	+6
投資その他の資産	357	351	△ 5	非支配株主持分等	2	1	△ 0
繰延資産	0	0	△ 0				
資産合計	2,675	2,630	△ 45	負債純資産合計	2,675	2,630	△ 45

現預金・有利子負債と固定資産の推移

現預金・有利子負債の推移



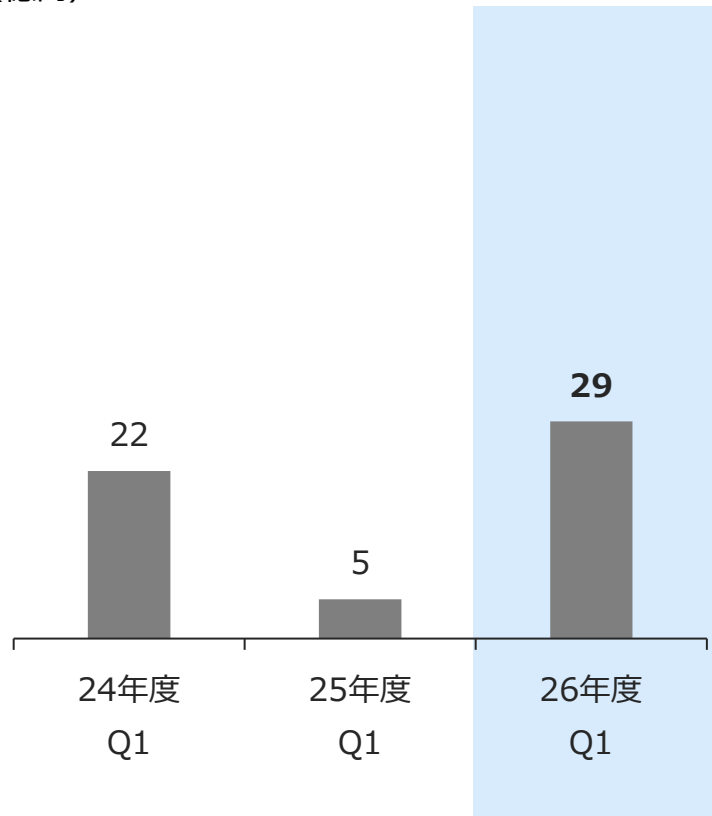
固定資産の推移



キャッシュフローの推移（過去3年間）

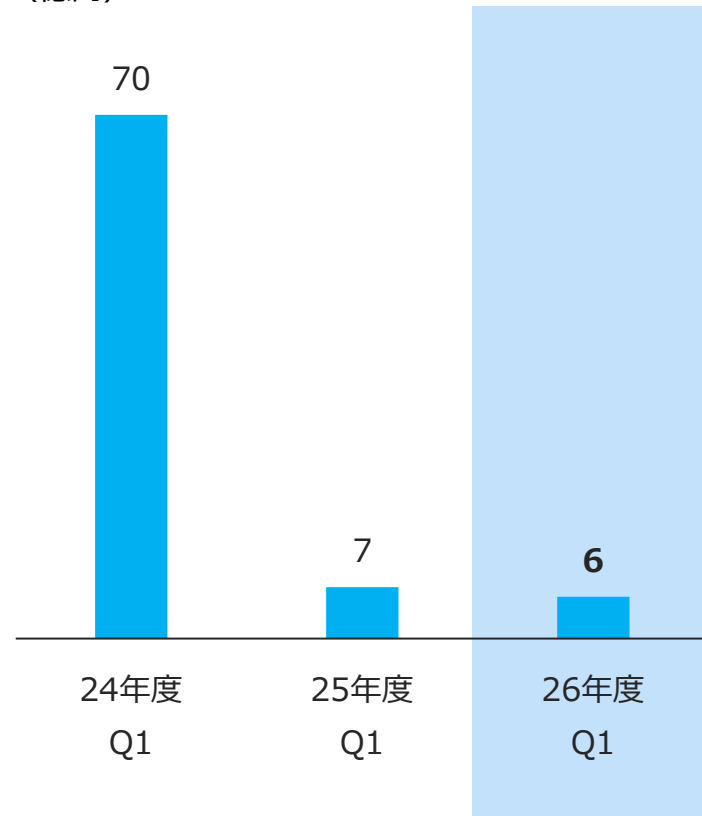
営業CF（キャッシュ・イン）

(億円)



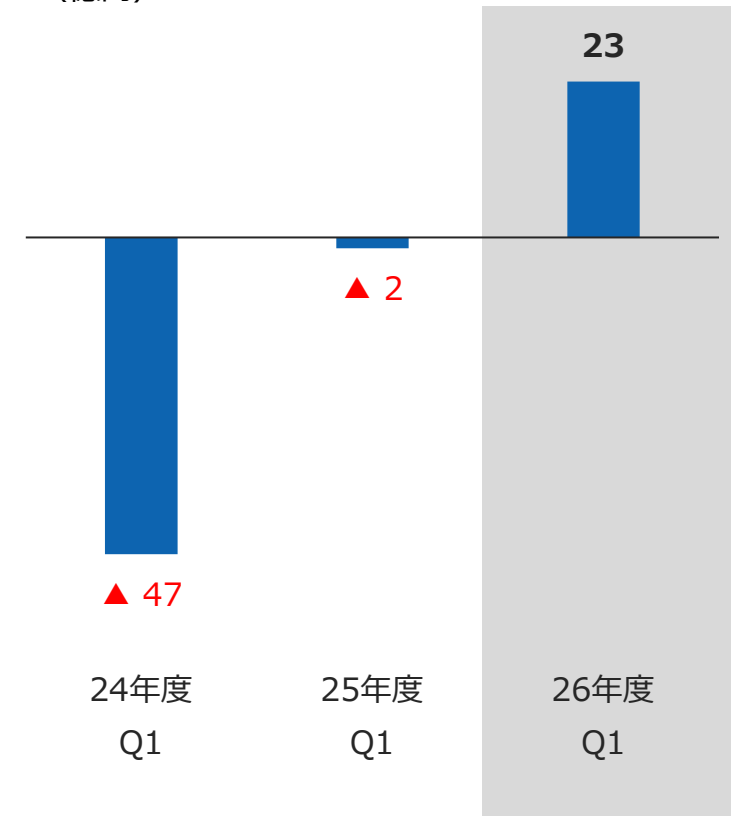
投資CF（キャッシュ・アウト）

(億円)



フリーキャッシュフロー（FCF）

(億円)



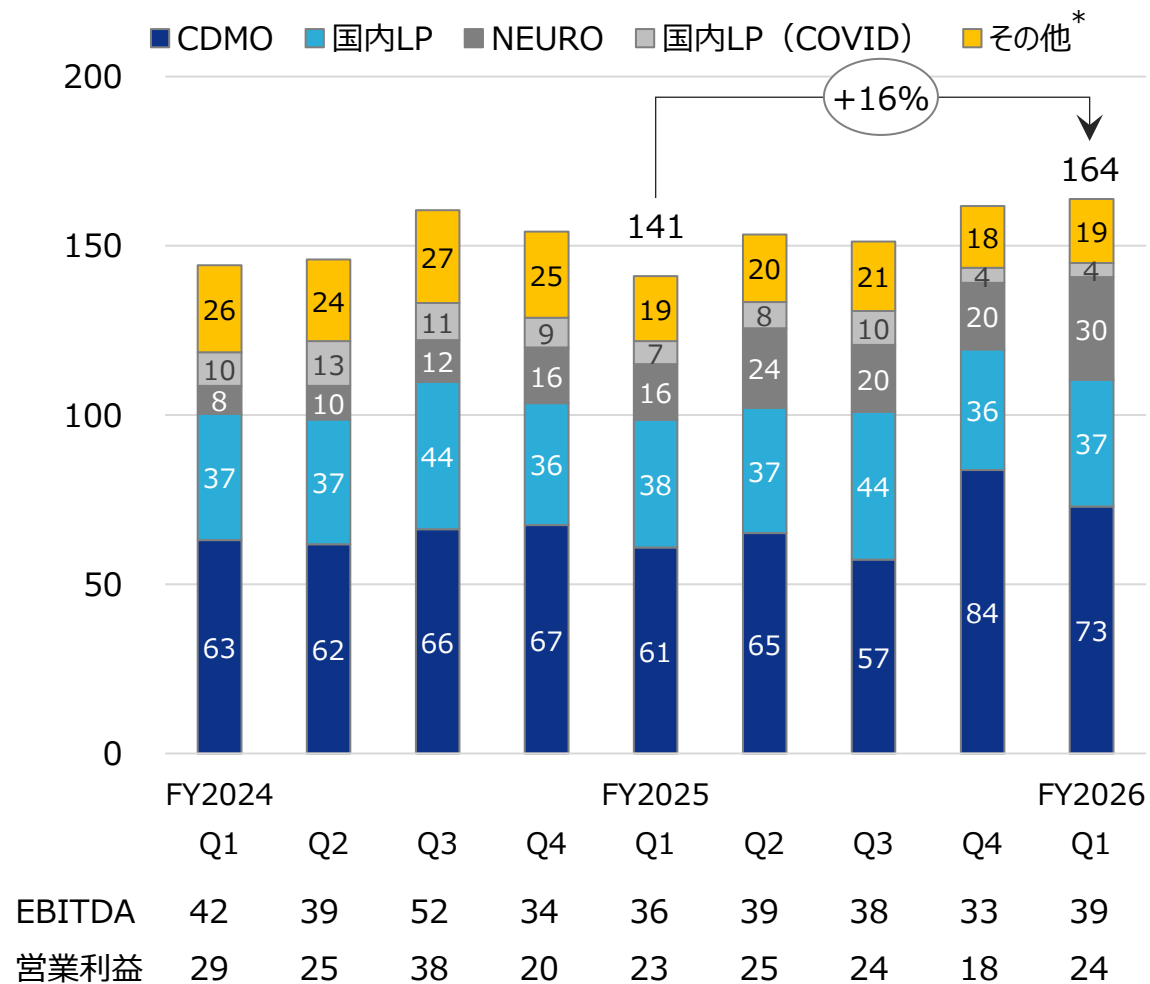
IVD、LTS事業の成長による営業CFの増加 及び 投資CFのコントロールによって、FCFは増加

2. 詳細：セグメント別

IVDセグメント

四半期推移

(億円)



*海外ルミパルス（その他項目）とその他製品の合計

対前期比

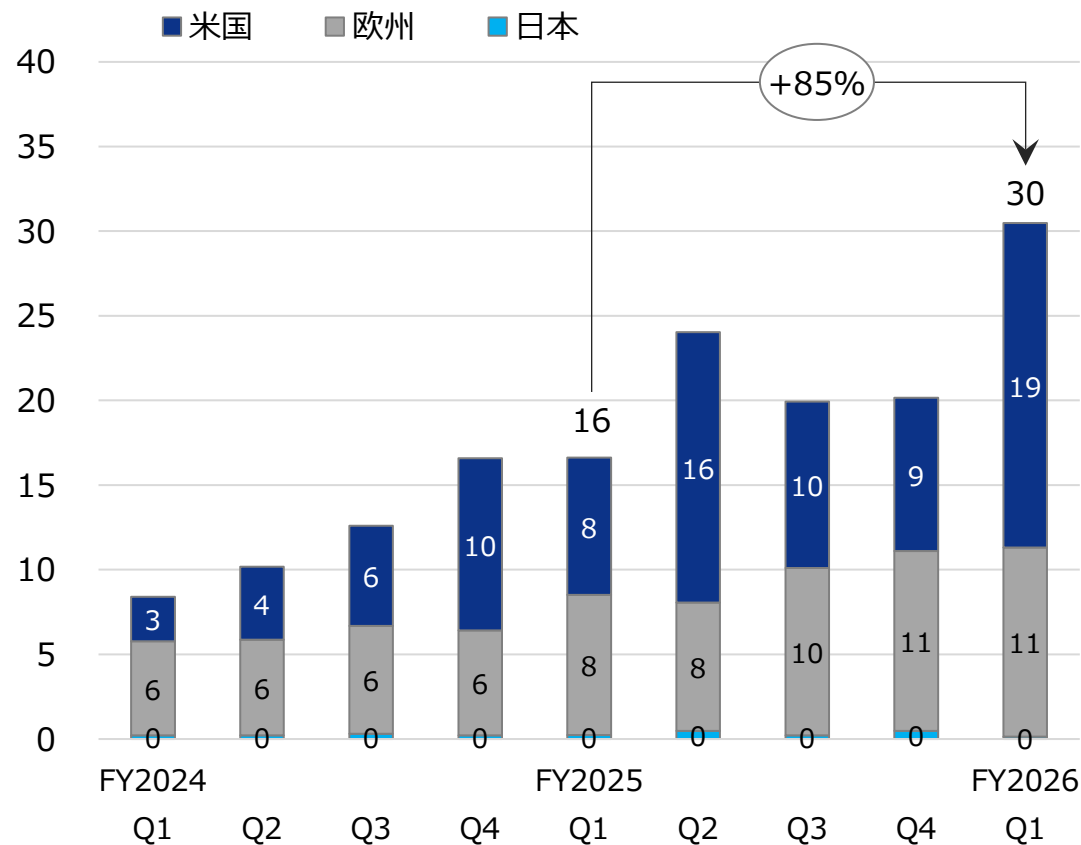
	25年度 Q1	26年度 Q1	増減	率
売上高	141	164	+23	+16.2%
ルミパルス	65	77	+12	+18.6%
国内（ベース）	38	37	-0	-0.8%
国内（COVID-19）	7	4	-3	-38.7%
海外（NEURO）	16	30	+14	+85.1%
海外（その他項目）	4	5	+1	+28.5%
CDMO・原料供給	61	73	+12	+19.9%
その他	15	14	-1	-8.8%
EBITDA	36	39	+2	+6.2%
営業利益	23	24	+1	+5.6%

- 成長領域である「NEURO」および「CDMO」合計は、対前年 + 34%
 - 今後とも、IVDの成長を牽引することを期待
- 国内ルミパルス（ベース；COVID-19以外）は横ばい
- 営業利益は、NEURO増収により増益したものの、国内ルミパルス機器設置に伴う費用、CDMO受託開発の費用先行の影響あり
- 為替影響：売上高 + 11.1億円、営業利益 + 2.2億円

IVDセグメント：NEUROビジネスの進捗

NEURO：四半期推移

(億円)



トピックス

- 米国・欧州では、ルミパルスの血液試薬を中心に、安定的な成長が継続
 - 対前年同期比 +85%
 - pTau217（血液）CE-Mark取得（26年5月）
- AAIC2026（ロンドン）では、pTau217の重要性が広く認知
 - pTau217（血液）試薬の増産準備
（現行の生産数量の10倍以上に対応可能なキャパ確保）
 - 新規項目（ADおよびAD以外）の開発および販売を実施

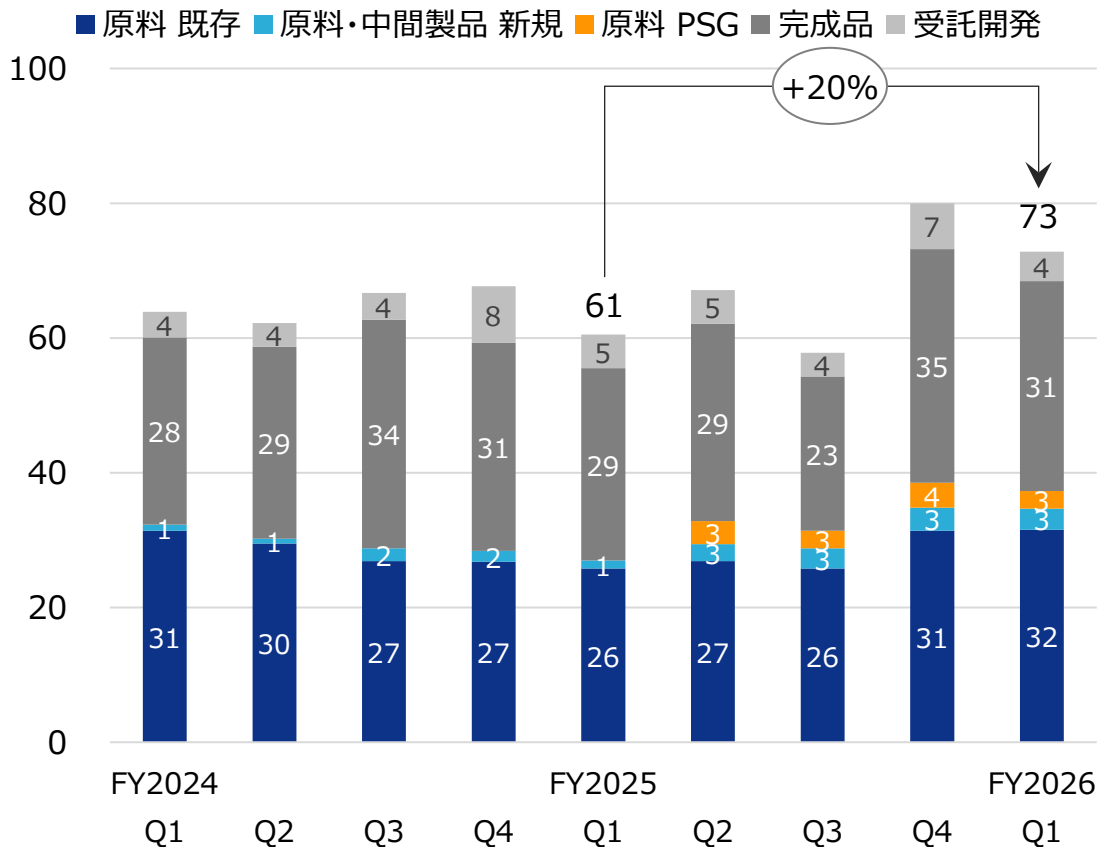


AAIC2026における当社出展ブース

IVDセグメント：CDMOビジネスの進捗

CDMO：四半期推移

(億円)



トピックス

- CDMO（既存）は、中国市場の回復およびグローバル市場の成長に伴い、完成品の出荷および原料供給が回復・成長（対前年 +15%）
- CDMO（新規）は、グローバル市場に加え、中国・インド市場向けに原料・中間製品の出荷が拡大（対前年 +158%）
 - 特に、ビタミンD試薬 原料は、昨年度一年にルミパルス試薬に使用された原料の10倍*の出荷を本年度上期に見込む

（参考）受託項目数 KPI：開発から製造に順調に移行

		2025年3月末	2026年3月末	増減
製造 フェーズ	グローバル	32	40	+8
	リージョナル	36	42	+6
開発 フェーズ	グローバル	23	16	▲7
	リージョナル	25	19	▲6

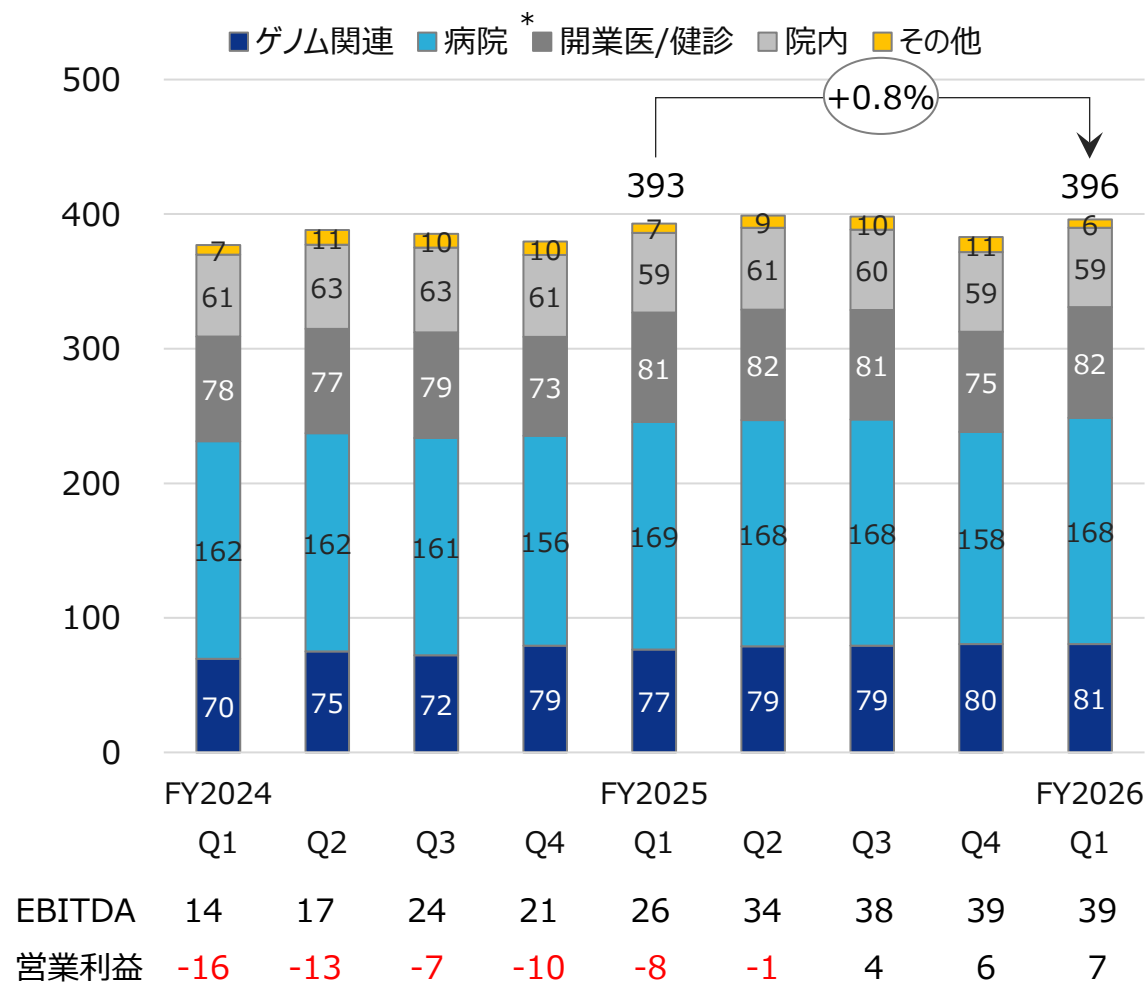
- PSG社は、想定通りの成長。既存CDMOパートナーへの紹介を実施、新規取引が開始しつつある

* テスト数換算に基づく

LTSセグメント

四半期推移

(億円)



対前期比

	25年度 Q1	26年度 Q1	増減	率
売上高	393	396	+3	+0.8%
院外事業	327	331	+4	+1.3%
病院*	246	249	+3	+1.2%
内、ゲノム関連検査	77	81	+4	+5.3%
上記除く	169	168	-1	-0.6%
開業医/健診	81	82	+1	+1.3%
院内事業	59	59	-0	-0.6%
その他	7	6	-1	-10.3%
EBITDA	26	39	+13	+48.2%
営業利益	-8	7	+15	-

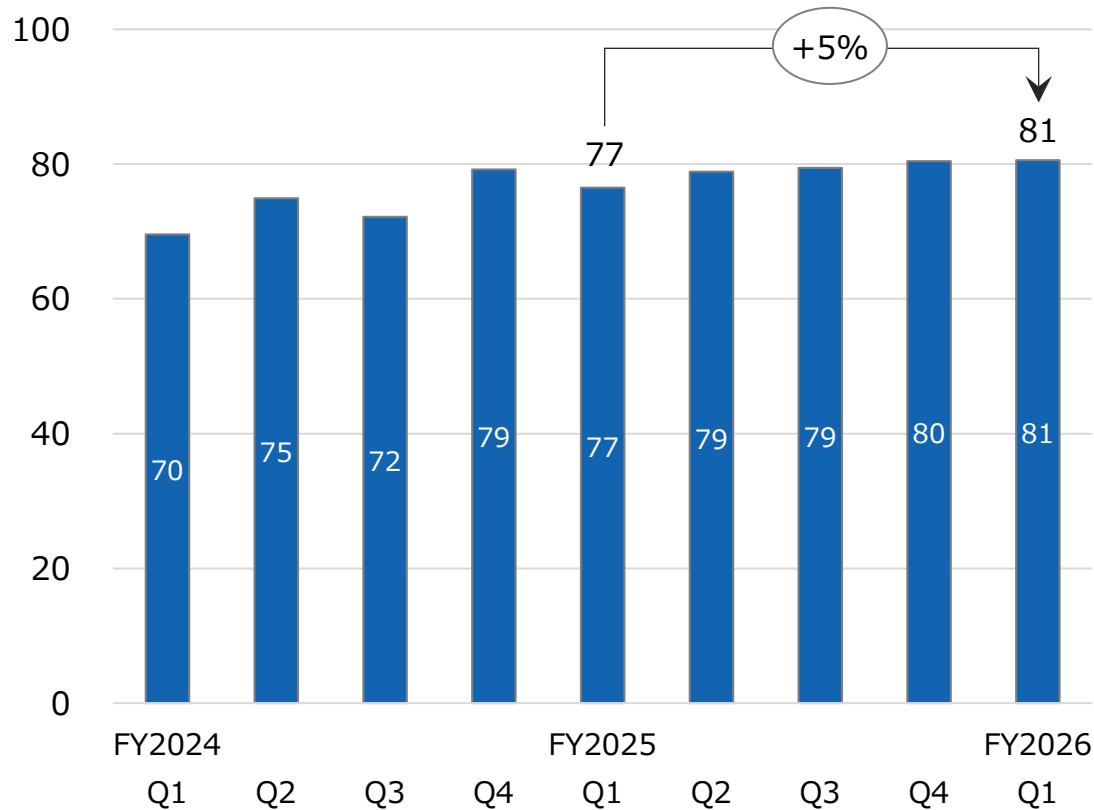
- ゲノム関連検査は、堅調な成長が継続（対前年 +5%）
- 販売価格の適正化は、計画通り進捗し、限界利益の増加に寄与。固定費削減施策による効果発現と合わせて営業利益は増益
- 25年度Q1には、あきる野関連一時費用あり（9億円）

* アライアンス先からの外注を含む

LTSセグメント：ゲノム関連ビジネスの進捗

ゲノム関連検査：四半期推移

(億円)



トピックス

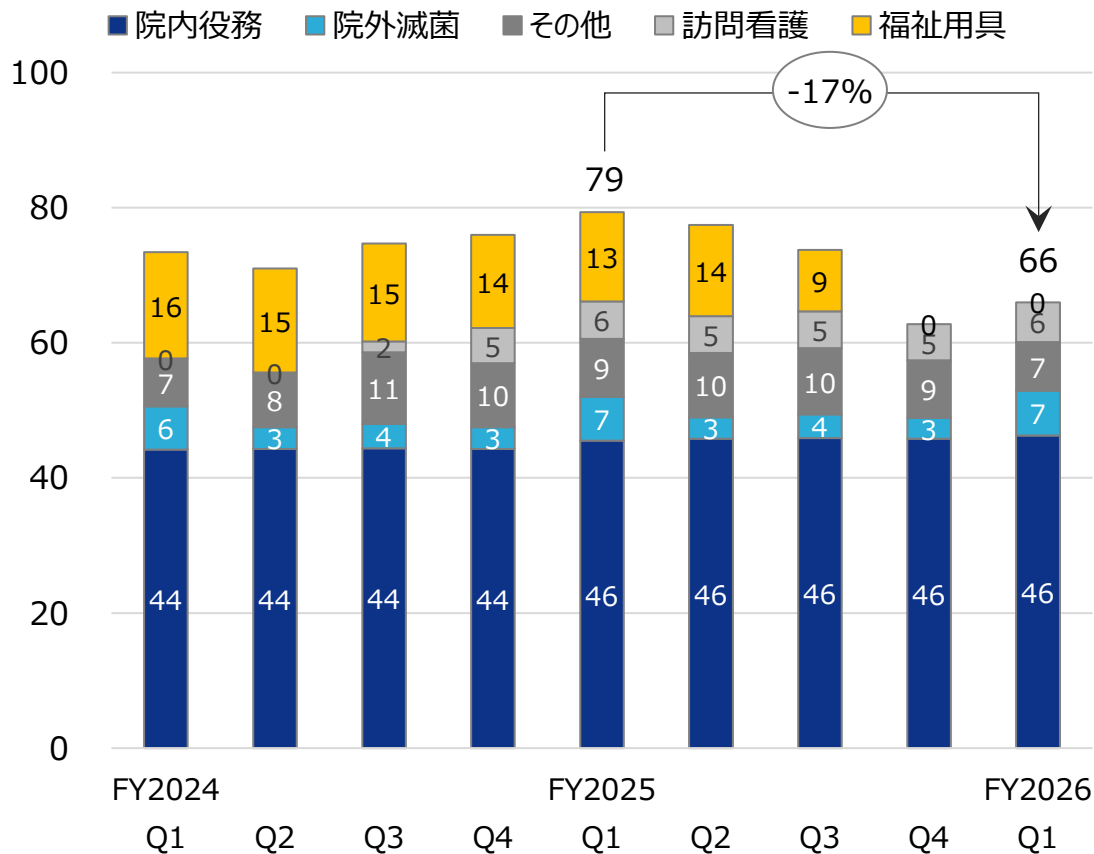
- ゲノム関連検査は堅調な成長を継続
 - 25年度中に受託開始した新規項目は今後も受託増を見込む
 - 造血器腫瘍遺伝子パネル検査「ヘムサイト®」
 - OncoGuide™ OncoScreen™ Plus CDxシステム
 - 既存項目
 - オンコタイプDX乳がん再発スコア
- 「ふじのくにHOPEオンコパネル®」の製造販売承認の取得（26年3月）
 - 国内唯一*の日本人がん症例データを活用した検査レポートを提供
 - 保険適用後、SRLが全国の医療機関から受託予定

* 保険診療で実施されるもの（2026年8月現在）

HSセグメント

四半期推移

(億円)



EBITDA	9	8	9	10	11	8	8	3	7
営業利益	5	4	4	5	8	4	4	1	5

対前期比

	25年度 Q1	26年度 Q1	増減	率
売上高	80	66	-14	-17.4%
滅菌・手術関連事業	61	60	-1	-0.9%
院内役務	46	46	+1	+1.6%
院外滅菌	7	7	+0	+1.5%
その他	9	7	-1	-15.9%
訪問看護事業	6	6	+0	+6.7%
福祉用具事業	13	-	-	-
EBITDA	11	7	-5	-39.9%
営業利益	8	5	-2	-30.8%

- 滅菌・手術関連事業
 - 価格適正化等により、院内役務は増収
- 福祉用具事業（ケアレックス社）の連結除外により、減収減益



将来見通しに関する注意事項：

資料中の業績見通し数値は、現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣による判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づき作成されたものです。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら業績見通しとは異なる結果となり得る事をご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢の悪化、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、新製品上市の遅延、競合会社の製品戦略による圧力、当社既存製品の販売力の低下、販売中止、等がありますが、これらに限定されるものではありません。